令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体名		公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団
施設名		美喜仁桐生文化会館（桐生市市民文化会館）
助成対象活動名		公演事業
内定額(総額)		7,059 （千円）
	公演事業	7,059 （千円）
	人材養成事業	0 （千円）
	普及啓発事業	0 （千円）

（１）令和４年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト カルテット・アマービレ	６月２７日 桐生市市民文化会館 小ホール	演目：ラヴェル：弦楽四重奏曲　他 出演：カルテット・アマービレ	目標値 実績値	170 161
2	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト lalala camarade	８月３日 桐生市市民文化会館 小ホール	演目：チャイコフスキー：「白鳥の湖」　他 出演：lalala camarade	目標値 実績値	170 158
3	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト 群馬交響楽団クラシック・スペシャル	９月１０日 桐生市市民文化会館 シルクホール	演目：ラヴェル：ボレロ　他 出演：群馬交響楽団、垣内悠希　他	目標値 実績値	916 1020
4	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト 生誕 240 年ニコロ・パガニーニの世界	１０月１４日 桐生市市民文化会館 小ホール	演目：パガニーニ：グランド・ソナタ　他 出演：鈴木大介（ギター）　他	目標値 実績値	170 157
5	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト 名手たちの華麗なるトリオ	１１月７日 桐生市市民文化会館 小ホール	演目：プーランク：フルート・ソナタ　他 出演：工藤重典（フルート）　他	目標値 実績値	170 150
6	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト ピアノ・トリオ Vol.2	１月９日 桐生市市民文化会館 小ホール	演目：ブラームス：ピアノ三重奏曲第１番　他 出演:成田達樹（ヴァイオリン）　他	目標値 実績値	170 169
7	地域のアーティストたちによる地域文化復興プロジェクト 狂言　「則重・則秀の会」　in 桐生	１１月１４日 桐生市市民文化会館 小ホール	演目：鬼瓦、鎌腹 出演：山本則俊、山本則重、山本則秀　他	目標値 実績値	170 111

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
美喜仁桐生文化会館（桐生市市民文化会館）は、両毛地域（桐生市、足利市、佐野市、伊勢崎市、太田市、みどり市）の芸術文化の中核文化施設として、桐生市が定める中期事業計画をもとに４つの社会的ミッションを設定し会館を運営している。４つの社会的ミッションとは、 ①地域住民の豊かな市民生活を醸成する。 ②誰もが平等に実演芸術に触れられる場を提供する。 ③市民の創造を育む。 ④コロナウイルスの拡大で傷ついた地域の再生をはかる。 本助成事業では、上記ミッションを考慮した事業を当初の予定通り下記のように実施したが、コロナウイルスの感染拡大防止の観点から広告宣伝だけは、当初予定していたエリアを大幅に縮小して実施した。 （１）質の高いクラシック音楽奏者を招聘し、地域文化の向上と豊かな市民生活を醸成する事業。 □（公演事業１・２・３・４・５・６） （２）伝統芸能の理解と継承を目的とする事業。 □（公演事業７） （３）コロナ禍で鑑賞機会が減少した子供たちに鑑賞の機会を提供する事業。 □（公演事業１・２・３・４・５・６・７） （４）コロナ禍で傷ついた地域の再生をはかる事業（地域の商店や観光ＰＲを行う事業） □（公演事業１・２・３・４・５・６・７）
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
【文化的意義】 桐生市やその周辺地域は、クラシック音楽や伝統芸能について、大都市と違い公演の数が圧倒的に少ないことから、精神的にも物理的にも縁遠い地域です。今回地域に縁のある質の高いクラシックの演奏家や伝統芸能の公演を数多く実施することで、芸術文化と市民の様々な距離を縮められたと考えています。 【社会的意義】 桐生市やその周辺地域でもほかの地域と同様にコロナ禍で様々な事業が中止を余儀なくされました。その中には市内最大のイベントでもある「桐生八木節まつり」や学校で実施している芸術鑑賞事業なども含まれていました。そうした中で、当館が積極的に事業を展開することで地域住民の鑑賞の機会を担保するだけではなくて、住民の心も癒すことができたのではないかと考えています。また、学校でのアウトリーチも実施し、子供たちの鑑賞の機会も提供することができたことも非常に意義のあることであったと考えています。 【経済的意義】 公演に来場する半分以上が市外ということもあり、お客様を市内（商店や観光地）に循環させられるように市内のお店を紹介するようなチラシを配布した。来場したお客様の内、チラシに載っているお店に訪れた人の数は、来客者数の２０％を超えた。こうした直接的なもの以外にも重伝建を含めた市内の観光などへの波及効果もあったと考えています。 以上のことから、助成に値する意義が継続して認められると考えております。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。
本事業では、下記の４つの目標を立てて事業を実施した。 【目標①】公演内容の質問で「大変満足している」の割合を７０％以上に増加させる。 【目標②】居住地が市外の割合を５０％以上に増加させる。 【目標③】クラシックジャンルの公演の入場者の集客率を６０％以上に増加させる。 【目標④】学校でのアウトリーチ事業での学校アンケートで「大変良かった」の割合を８０％以上に増加させる。 【目標⑤】公演の来場者がパートナーショップを利用する割合を３０％以上に増加させる。 目標の達成度 【目標①】アンケート結果によると「大変満足している」が８１％であった。目標の「７０％以上に増加させる」というのは達成した。その大きな力になったのは、助成金を得たことで出演者の質を高めることができたこと、クラシック音楽ジャンルについては、室内楽を中心としたプログラムが地方ではあまり聴く機会が少ない楽曲を選択したことだと考える。 【目標②】アンケート結果によると市外の割合が５２％となり、市外のお客様の割合を５０％以上に増加させるという目標をギリギリ達成した。当初の予定では埼玉県、栃木県、群馬県と３県に渡って広いエリアで広告宣伝を実施する計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からエリアを群馬県だけに絞ったことによりギリギリの達成となった。 【目標③】クラシックジャンルの公演の入場者の集客率が５９％となり、入場者の集客率を６０％以上にするという目標をわずかながら達成できなかった。その大きな要因としては、目標②と同様に新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からエリアを群馬県だけに絞ったことによりギリギリ未達成となってしまった。 【目標④】学校でのアウトリーチ事業での学校アンケートで「大変良かった」の割合を８０％以上に増加させるという目標では、アンケートの結果８５％の子供たちが「大変良かった」と感じてくれ、達成した。この事業は、そもそもコロナ禍で学校の鑑賞事業のほとんどが中止となるなど鑑賞機会を失った子供たちに鑑賞の機会を提供するために実施した。そう言った面でも成果があったのではないかと考える。 【目標⑤】公演の来場者がパートナーショップを利用する割合を３０％以上に増加させるという目標を立てたが、アンケート結果２１％であり未達成となった。未達成の理由としては、指標となる目標をパートナーショップのみの利用に限定したことが伸び悩んだ理由だと考える。実際にはパートナーショップ以外の市内のお店に訪れるお客様もたくさんいたことから、目標の意義は大方達成したのではないかと考えている。

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
公演事業の７事業については、当初の計画通りに実施した。ただし、広告宣伝の計画については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から４事業については宣伝エリアを大きく狭めたこととそれに伴い印刷物の削減などを実施した。１事業については、新型コロナウイルスの感染が緩んだこととチケットの売り上げが振るわなかったことから、当初の予定よりも広いエリアで宣伝活動を実施した。また、それに伴い印刷物なども大幅に増やした。 事業番号７の「則重・則秀の会」で実施予定であった＜関連事業＞の「リレー狂言」は、当初狂言の演目を少しずつ演じてもらう予定であったが、難易度が高すぎると判断し、狂言の舞を習って披露するというワークショップに変更した。これに伴い日数を３日から１日に変更した。 それ以外のすべての事業に共通の＜関連事業＞である「子供たちのための芸術体験プロジェクト」と「パートナーショップ」については、全て予定通り実施し大きな成果を得た。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
支出については、おおむね当初の計画通りに進んだ。しかしながら、上記にも記載したが、４事業について新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から宣伝エリアを狭めたことにより総額で３００万円近い支出の減少があった。また、逆に１事業については、チケットの販売が振るわなかったことから新型コロナウイルス感染が緩んだこともあり、広告エリアを最大限に拡大したことにより、２５０万程度の支出増になった。 収入についても、全体に新型コロナウイルス感染拡大の影響から若干計画に届かなかった。 それぞれの支出や収入での差異はあったが、７事業全体では、当初の予定通りであったことはよかったのではないかと考えている。

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
【群馬交響楽団との連携】 桐生市は、群馬交響楽団の出資地自体の一つであり、毎年市内の小・中・高等学校学生に移動音楽教室を当館で２０公演程度実施している。また、中学校の吹奏楽部のトレーナーを団員の演奏家が務めていたりする。当館の事業としても中学校の吹奏楽部の生徒に対して、毎年楽器のクリニックを実施しており、１００名前後の生徒が受講しているなど、多くの地域住民が当館を中心として演奏だけではなくて様々な形で地域のオーケストラを楽しんでいると考えている。 【アドバイザーとの連携】 音楽事業の公演内容については、主に当館のベテラン事業担当者を中心として出演者と協議の上決定している。そうした中で事業内容の偏りなどを防ぐために当館のアドバイザーでもある音楽評論家の渡辺和彦氏に音楽事業全般に対して俯瞰的な意見をいただいて事業運営に活かしている。特にクラシック音楽については、アドバイザーが造詣深いこともあり、アーティストの最新情報から楽曲の流行まで様々な角度でアドバイスをいただき、今回の事業でもアーティストの選考からプログラムの作成まで行っている。 一方伝統芸能分野においても、当館のアドバイザーでもある人間国宝の山本東次郎氏にアドバイスいただき主に能楽の公演を中心として実施している。また、山本東次郎氏率いる狂言山本会の協力のもと小学校の児童に対して学校の授業の中で狂言を見てもらえるように狂言師を派遣する講師派遣事業も実施している。こうした活動を通じて多くの子供たちが能楽を見られる環境を整備している。 【地域の文化団体との連携】 桐生市は戦前から文化活動が盛んな地域ということもあり、様々な文化団体が積極的に活動を行っている。その中で能楽の団体が宝生流と観世流を中心として２００名以上の方が活動しており、そうしたこともあり、市内に民間の能楽堂が現在でも４つある。その方々とともに狂言のアウトリーチを地域の能楽堂を使って実施することで伝統芸能に対する理解を深めることができている。 【温かい観客】 当館の観客は、出演者からよく「非常に温かい」を評される。上記にも記載したが、桐生市及びその周辺地域は江戸時代の後期くらいから織物を中心として非常に発展したこともあり、非常に文化的なことに造詣が深い観客が多いことが考えられる。そうした観客に支えられ特にクラシック音楽事業については、若い出演者に対して非常に好意的で、そうした出演者の登竜門的な場として様々な方面から認識を得ており、これも当館の財産の一つとして考えている。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【地域に根付く公演事業】

公演実施について、今年度実施した補助事業の多くが当館でリハーサルを行うなど多くのアーティストが桐生に滞在した。そうした中で当館のアドバイザーでもある渡辺和彦氏にもご協力いただき、公演の質を少しでも高めるために助言をお願いするなど芸術的なクオリティを高める努力を行った。また、滞在中に市内の学生にレッスンを行うなど地域の文化的な向上にも寄与した。そうした結果、アンケート結果によると公演が素晴らしいかったと感じたお客様が８０％以上であった。

【地域の信頼を集める事業展開】

質の高い事業を展開することにより、特にクラシック音楽事業では、１年を通じたセット券の販売が昨年よりも大幅に増えて非常に好評を得ることができた。セット券を販売したことで同じ観客が様々な公演を鑑賞することになる。こうした状況が出演者から観客が温かいといわれる要因になったのではないかと考えている。このような観客を育てることで、ひいては地域の実演芸術家を育てることにつながっていると考えている。

【学生鑑賞環境を改善】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で子供たちが生の演奏を楽しむ機会が大幅に減少していた。そうした中で子供たちに対して、「子供たちのための芸術体験プロジェクト」と題して事業を展開した。これは、すべての自主事業でチケットの単価にかかわらず高校生以下はすべて５００円にして簡単に文化事業に参加できる環境を整えた。また、学校での芸術鑑賞事業がほとんど行われていなかったことから、小学校に対して「講師派遣事業」という授業の中で子供たちが無料で芸術体験ができるような環境を整えた。こうした事業を通じて、２０００人以上の子供たちが生の実演芸術を体験した。こうした活動は、子供たちの健全な育成に寄与できているのではないかと考えている。

【地域経済の改善】

すべての事業で、桐生市内の商店、レストラン、観光施設などのＰＲチラシを配布した。こうした活動によって来場者の２０％以上が市内を回遊し楽しんだ。来場者の半分以上が市外からのお客様であることを考えるとこうした活動を通じて、市内をめぐってもらうことが桐生市の経済の発展の一助となると考えている。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
【当財団の事業担当部署の制作ノウハウの蓄積による持続性】 当財団の職員が、公演制作にかかわる出演者やマネジメントとの交渉や協力などや広告宣伝からチケット販売まで多岐にわたる実務を行うことで事業担当者のスキルアップやノウハウの蓄積などにつながり、今後の事業展開に非常に有意義であり、持続してクオリティの高い事業を提供できる体制を整える一助になっていると考えいる。 【友の会による持続性】 当館の友の会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で減少したが、本事業で質の高い事業を提供することで友の会の会員が倍増した。（２００人程　→　４００人程度） こうした流れは、今後の事業展開においても非常に有効であり、特に広報活動やチケット販売にも良い影響を及ぼすものと考えている。 【教育機関との連携による持続性】 今回アウトリーチや楽器のクリニックなどで市内の小中学校と連携したことにより、先生方から当財団の事業に対する期待も持っていただけるようになった。これは、今後の子供たちへの事業を展開するうえで非常に必要なものであり、今後の展開についても様々な先生方からの助言もいただけるような関係になったことは今回の事業の成果であったと考えている。 【地元文化団体との連携による持続性】 地元文化団体との連携で狂言のワークショップを地域の能楽堂で実施したことにより、高齢化で活動が難しくなりつつある文化活動の活性化の一助になっていると考えている。地域の文化活動が活性化すると当館が実施する事業に対して良い影響があるのはもちろんのこと、貸館事業でも稼働率の向上など会館運営全体に良い影響を及ぼすと考えている。 【財源の確保による持続性】 質の高い事業を数多く展開することで、当館の企画を協議する市民の代表の方々からも非常に評価をいただいた。そうしたことは、桐生市からの財源に頼る当財団の事業展開に非常に良い影響を及ぼすと考えており、今後の事業予算の獲得にも役立つと考えている。 【アドバイザーによる持続性】 今回の事業を実施したことにより、アドバイザーである人間国宝の山本東次郎氏と音楽評論家の渡辺和彦氏とのつながりが非常に深いものとなり、当財団の事業展開に非常に深みを与えるものになっていくのではないかと考えている。特に伝統芸能分野においては、山本会が桐生市で狂言教室を開くことを模索したりするなど、出演者が桐生で活動する起爆剤としても役に立っていると考えている。